

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:2023年 3月3日

事業所名 放課後等デイサービスはなはな

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		遠すぎず近すぎずワンフロアで見ることが出来ます。	曜日、時間帯、活動内容によっては、手狭に感じている。活動内容や過ごし方に応じた使用方法をその都度検討します。
	2	職員の配置数は適切である	○		児童発達支援管理責任者を配置し、利用人数に対して基準人員常勤2名とプラス常勤1名と非常勤1名を配置しています。	送迎で職員の出入りが多い時もあります。、子どもの人数が多い時間帯は体制を調整します。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		事業所内には段差がなく、車イスやバギー等そのまま入ることが出来ます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		空気清浄や清掃は常に取り組んでいます。また季節に応じた衣替えも実施しています。	空気清浄機の活用、また換気も行っています。感染症等の世間の動向に着目し、子どもの健康と安全に務めます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		会議や子ども達がいらない空いた時間に支援方法の見直しや改善等の共有をしています。	こどもの利用頻度によって支援方法・内容の検討機会の偏りが見られるので随時スタッフ間で共有をします。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		スタッフ全員で評価表を確認し、把握して業務改善に繋げています。	過去の評価表と比べてどうか、保護者等の意向はどのように変わっているのか確認し、改善できるところは改善に努めます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに公開しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		法人としての第三者委員はあるが、定期的な評価は受けていません。今後検討していきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修に参加と内部研修をそれぞれ行いました。しかし、全てのスタッフが参加することは出来ていません。	入社や異動で勤務歴2年未満のスタッフもいるため、基礎研修にも参加を増やしていきます。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		利用前に面談にてアセスメントの聞き取りをして、情報を基に子どもの状況・課題・ニーズなどを把握し支援計画を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		必要な児童にはツールを利用しています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ご家庭と連絡をとりその状況に応じたニーズを聴き取り、支援計画に反映しています。	本人とご家族双方の思いやニーズを可能な限り聞き取り、双方の意思をくみ取った支援方針を検討していきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		スタッフ間で共有し支援にあたっています。	常に本人の状況が変わるので、都度関係各所と連絡を取り詳細を確認します。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフ全員で行っている。	より活動内容が本人に伝わるような提示の仕方立案時に検討します。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		個々のニーズに合わせています。子どもの主体性を大切にしている。保護者の方と相談して、あえて固定化している子どももいるので、『はい』とは言いがたいです。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
ハ	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		子ども達それぞれに合わせて作成しています。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日の体制等をホワイトボードへ掲示し、スタッフ間で共有しています。	安全性を確保した体制を今後も心がけています。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		当日は送迎等で出来ないことが多いですが、合間の時間や翌日に振り返りや気づいた点の話をしています。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の内容を記録し、検証・改善につなげています。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングを行い、計画の見直しをしています。	状況に応じた支援方法・内容の計画変更にも努めます。
関係機関や保護者との連携	21 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		サービス担当者会議には参加しています。	相談支援事業所の方と連携を取り、現状の把握に努めます。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて、区役所や子育て支援センターと連携を取っている。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	22年度は医療的ケアが必要な子はいませんでした。	以前、医療的ケアが必要な子どもの受け入れをしていた経験があるので、今後受け入れをする際には、その経験を活かします。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	22年度は医療的ケアが必要な子はいませんでした。	以前、医療的ケアが必要な子どもの受け入れをしていた経験があるので、今後受け入れをする際には、その経験を活かします。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	22年度は該当者はいませんでした。	今後、対象となる子がいた際には、努めます。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	22年度は該当者はいませんでした。	今後、対象となる子がいた際には、努めます。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて、情報の交換を行っています。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナ禍のため、機会が減っているので、今後状況を見て検討します。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		積極的に参加しています。	2つの部会に参加し、その一つは副会長として役割を担っています。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時にその日の様子等をお伝えしたり、連絡帳でやり取りをしている。ご家庭によっては、写真をLINEで送ってお伝えしている。	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	行っていません。また、間接的に相談支援事業所に情報を提供したりして、支援の情報の提供を行っています。	今後、検討していきます。
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行っています。	変更等があった場合速やかに連絡・報告を行うことに留意します。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画を作成した後、各保護者に必要に応じた説明を実施しています。	本人の様子に適切な支援内容と方針を定め、必要があれば適宜変更を行います。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		ご相談があった時には、対応しています。	送迎時や連絡帳等を通じて日々のやり取りの中から、ニーズの掘り起こしを行います。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		この1年はコロナ禍で行なえていません。	以前は、親睦会にて、親同士の交流や連携を取り、セミナーでは外部の先生にお越しいただき、勉強会をしていました。23年度は、親睦会を開催する予定です。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ご家庭の状況により、相談や受け入れの申し入れがあった場合については可能な限り相談に応じています。	当事業所だけで取り組むのではなく、必要に応じて相談に対応できるように他部署に応援を依頼する等の体制確保に努めます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年間4号前後、通信を発行し、活動報告、行事予定等を発信している。また、ホームページ上のSNSを活用し、発信も行っています。	必要に応じて、説明や報告又は資料を用いて、ご家庭や本人が分かりやすいような発信を心がけます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報には十分に注意し管理しています。	改善するような出来事は現状ではないが、引き続き留意します。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳、メール、FAX等を使ってできています。	意思の疎通については様々なツールや非言語コミュニケーション等の方法を用いての配慮を引き続き取り組みます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		法人として取り組んでいます。	今後も継続して実施し、機会を増やせるよう企画検討を進めます。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルを事務所に掲示及びスタッフに周知し、確認を行った。また保護者にも説明配布を行っています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		長期休みごとに避難訓練の日を設けている。毎回テーマごとに子ども達と勉強会、訓練は継続して行っています。	毎回、地震・火事などテーマごとに行っている。なかなか全員が訓練をすることが難しく、保護者の中には訓練していることを知らない方もいる。周知は行っているがより認知されるように周知の仕方を検討します。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時に詳しくお聞きしています。	変更があればその都度お聞きします。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者の方より注意点をお聞きしている。また昼食時やおやつ時には席を離すなどの対応を行っています。	引き続き、席を離すだけでなく、パーティションを立てたり、食後は除菌や掃除を徹底し、アレルギーが当該児の口に入らないようにします。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		大きなヒヤリハットはなかったが、その都度、共有し、再発防止に繋げられるよう取り組んでいます。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待や権利擁護の研修を法人として行っています。	改善すべき点は現状ではないが、研修への参加機会を増やせるような体制を目指します。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	身体拘束をしていません。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。